講義 5 : 雑誌 1

受入と目録

三浦裕子(東京女子医科大学図書館)

講師略歴

- 1980.4-1982.3 整理係 単行本
- 1982.4-1986.3 運用係 カウンター
- 1986.4-1992.3 運用係 相互貸借
- 1992.4-1993.3 看護短期大学分室
- 1993.4-2000.3 整理係 雑誌
- 2000.4-2003.3 第2病院分室
- 2003.4- 整理係 雑誌

講義 5 : 雑誌 1 受入と目録

東京女子医科大学図書館雑誌係 三浦裕子

I. はじめに

大学をとりまく状況が大きく変化しています。最も大きな変化は2004年4月の国立大学の独立行政法人への移行です。教育改革は、1991年の新しい大学設置基準の大綱化で大学の「自己点検・自己評価」を公表することが義務化となりました。2001年には小泉首相の「大学(国立大学)の構造改革の方針」が出され、1.国立大学の再編統合、2.国立大学の制度を解体し法人化、3.競争原理を導入し国公立「トップ30」大学を重点育成の3つが実施されました。私立大学では少子化の影響を受け定員割れが起り経営の危機が大きな問題となっています。

きびしい大学の財政下で図書館の予算も削られています。医学図書館の資料費予算の中で外国雑誌代はかなりのウエイトを占めているため、外国雑誌購読の維持には大学の理解が必要となります。外国雑誌の価格は、毎年10~15%の高騰を続け(この上昇は一般の物価上昇の比ではありません)、為替レートの変動による円高・円安の影響も受け、購読維持が困難な状況にあります。

内島は「科学・技術・医学分野の外国雑誌は高額なタイトルが多く、厳しい財政状況の中で購読数の維持は極めて困難になっている。この10年間で日本の大学図書館における外国雑誌の購読数は減り続け、1989年のおよそ4万タイトルをピークとして、1999年には2万5000タイトル余りまで激減した。これがいわゆる『シリアルズ・クライシス』と呼ばれるものである。」と報告しています。このような状況でも学術情報は日々洪水のように公開されており、より速く情報を入手したい利用者のニーズは高まる一方です。

II. 雑誌とは

学術雑誌の特性について松尾は1971年の『薬学図書館』に次のように定義している。

1. 雑誌は一貫した誌名を持つ。
2. 雑誌はエンドレスの刊行物で通常定期的に発行される
3. 雑誌は改定されない
4. 雑誌は合冊製本を予期して編集される

5. 雑誌は内容記事の独立性があって目次に重要性がある

6. 雑誌は予約購読性を慣例とする。

7. 雑誌は管理上一般図書とは別扱いする

この特性は現在でも変わりませんが、冊子体以外の電子媒体での出版、インターネットを介しての情報の公開、オープンアクセスパブリッシングという新しい出版形態の出現が新たに加えられます。オンラインジャーナルのみでの発行される雑誌も増加しています。これからの図書館には冊子体の雑誌と電子媒体の雑誌の双方を、利用者へのサービス面と価格の両面からバランスよく購読していくことが要求されます。

1. 雑誌業務

業務の流れは 1. 選書(購入・中止の決定)、2. 発注・契約・支払、3. 受入・クレーム、4. 配架、5. 製本、となり、最後に 6. 蔵書点検を挙げておきます。

雑誌には外国雑誌、国内雑誌(ここでは国内欧文雑誌も含む)があり、入手方法により購読雑誌(商業誌、学協会誌)、寄贈雑誌、交換雑誌と分けられます。

1) 選書(購入・中止の決定)

外国雑誌の予約との関連で、新規購入・購読中止は通常毎年秋までに決定されます。学内の図書委員会にて利用者からのリクエスト、相互貸借での他館への申込を考慮し検討され決定します。その他、研究動向や新分野の雑誌を把握し図書館員も新規・中止を提案します。

新規購入・中止を決定する客観的データとして、雑誌係は国内所蔵館数、インパクトファクター、出版社、創刊年、年内発行冊数、価格等の情報を集め、委員会への資料を作成します。サンプル誌を事前に入手できれば、委員会での検討に役立ちます。中止の決定に際しては、国内所蔵館なしという事態を避けるため日本医学図書館協会で行なっている高価な雑誌、マイナー雑誌の「分担購入」にも留意します。

雑誌の情報を調査するには、各出版社のホームページから簡単に最新情報の入手が可能となっています。冊子体での調査には外国雑誌の場合は「Ulrich's International Periodical Directory」、国内雑誌の場合は「出版年鑑」、「雑誌新聞総合かたろぐ」等があります。

2)発注・契約・支払

外国雑誌は1年単位で予約し前払いが原則です。新規購入のタイトルが決定すると国内の取次業者へ見積りを依頼します。数社から見積を取寄せ価格交渉をし業者を決めていきます。業者が決定すると翌年の継続・新規・中止タイトルを網羅した契約書を取り交わします。この際、契約書のタイトルに漏れがないか、中止したタイトルが除かれているかを必ず確認します。また、冊子体だけの契約、オンラインジャーナル込みでの契約(最近では冊子体だけの価格設定は少なく、オンラインジャーナルも含むものが増えています)と予約時に契約内容の付帯条件の確認も重要です。

外国雑誌の価格通貨にはドル、ユーロ、ポンド、ギルダー等さまざまで、予約時期の為替レートが大きく価格に影響します。雑誌の価格は個人購読(Individual or Personal)、学生購読(Student)、図書館等の機関購読(Institutional)、国別でさまざまに設定されています。不特定多数の利用者に複写される図書館の購読価格は高く、個人の購読料とは大きく差があります。

下は雑誌「Cell」の2004年の価格表です。

Subscription Rates

	Individuals	Institutions
United States	\$ 159	\$ 949
Canada	\$ 159	\$ 949
Rest of the World	\$ 239	\$ 1068
Online only	\$ 159	Site License
Single copy only	\$ 50	\$ 50

*Individual prices include full-text online access.

*Institutional prices are print-only and do not include online access.

最近を取次業者の利用だけでなく、出版社からの直接購入、EBSCOhost、Swets等のアグリゲーター(いくつかの出版社の雑誌を統合して提供する統合サービス業者)経由、コンソーシアムを組んで購入するさまざまな購入方法を選択できるようになっています。

国内雑誌は、一般の医書取扱い書店より1冊ずつ購入できる市販商業誌と、学協会へ入会し年単位で購読する学協会誌があります。新規・中止は医書取扱い書店へ連絡、学協会誌は入退会の手続きをとります。「財団法人日本学会事務センター」に編集・発行・事務局

を置く学会が多くあります。国内雑誌も正会員（個人会員）と購読あるいは賛助会員（機関会員）で会費の設定があり、オンラインジャーナルの利用や学会抄録号の購入等の利用内容に差があります。

国内の学会は、和文の他に日本の優れた論文を海外に公開するために国内欧文の2誌を出版することが多くあります。会費には両方を含む学会、個々に会費を払う学会、国内欧文誌は外国雑誌扱いとなり国内取次業者に申し込む学会とケースがいろいろありますので、入会時に確認が必要です。この学協会への支払は個々の学協会へ郵便振替での支払がほとんどですが、各学協会毎に手続きが必要で、請求時期もまちまちであったり、こちらから請求書の発行を依頼しないと支払手続きが進まないところもあり、かなり複雑な業務となります。会費を払わないと雑誌の発送が止まるため、担当者は毎年定期的に請求書の発行依頼手続きをとります。雑誌係は、開封時に「請求書在中」「会費支払時期」等の封筒の文字や、雑誌にとじ込まれている郵便振替用紙等を見落とすこと無い様注意を払います。オンラインジャーナルの登録や問い合わせ時には封筒の宛て名に印刷されている購読者番号 (Subscription number) が必要となりますので、封筒や宛て名ラベルを一定期間保管します。

3) 受入・クレーム

雑誌は直送便(毎日の郵送、宅配便)で届くものと、パッケージ便(毎週決まった曜日に宅急便で届く丸善の MACS、紀伊国屋の ACCESS 等)があります。封筒の宛て名を確認しながら開封しますが、その際誤配は速やかに正しい宛先への転送の手配をします。東京女子医科大学図書館では、郵便等を担当している総務課に戻す手配をとります。宛て名には間違いはなくても、差出側のミスで他の部署の購読雑誌が図書館宛で届くこともよくあります。雑誌係を数年経験すれば自館の購入タイトルか否かは雑誌の表紙をみればわかるようになるでしょう。

クレームは、ある一定の期間が経過すると受け付けてもらえなくなるので速やかに処理します。水濡れ・破損等の事故、製本のミスによる事故等で不良品が届く場合もしばしばありますので、すみやかに購入の取次業者にクレームを入れます。外資系の取次業者の場合はオンラインでのクレームシステムがあり便利です。取替の雑誌が届くまでクレームした雑誌も可能な限り利用し、最新号の未着状態にならないように努めます。発行元からクレーム中の雑誌が届き、現物との取り替えを要求されることもあるので、取替の雑誌が届くまで捨てないようにします。開封の段階で落丁・乱丁・印刷ミスのチェックができれば

ベストですが、できない場合は受け入れ作業中に、ざっと雑誌をめくってページをチェックします。

次はいよいよ受け入れ作業です。少し前まではカーデックスで受入業務がなされていたが、最近ではほとんどの図書館で図書館業務システムの導入がなされ、ディスプレイに向かっての「チェックイン」作業となります。到着した雑誌はその日にチェックインし、誤配、重複、寄贈先等の確認が必要なケースがあるので、封筒や宛て名ラベルの入ったものはすぐに処分しないようにしばらく保存しておく必要があります。

それぞれの図書館で毎日多くの寄贈雑誌が届いていると思いますが、主に医学分野のものは受け入れるか否かは委員会に懸け検討します。保管スペースに恵まれている図書館はしばらく保管できますが、溜まる一方なので処分の検討は重要になります。

チェックイン作業は、巻号年・増刊 Suppl 等を正しく入力し(必ずチェックイン後に確認を行ない誤入力を極力防ぐ)、未製本雑誌を貸出する場合にはバーコードを貼り、ID 番号を登録します。未着の場合はシステム上「未着」のフラグを立てクレームをします。会計処理も図書館業務システムで行なっている図書館は価格を入力します。誌名変更や新規の雑誌は国立情報学研究所(旧学術情報センター、以後 NII とする)の NACSIS-CAT より書誌をダウンロードし、受入用のデータを作製します。

取次業者に受入チェックを定期的に行なってもらうことも可能です。学会抄録号や Supplement には会員のみ配布、スポンサーが付いて限定された利用者に配布との理由で図書館等機関会員では入手不可のケースもあります。外国雑誌の場合は取次業者、国内雑誌の場合は出版社・学協会へ問い合わせ始めて未着の理由がわかるので、問い合わせはその都度行い、回答が届いたらチェックインの画面に理由を入力し記録を残しておきます。

チェックインが終わると受入印を表紙に押し、最新号の目次サービス(Contents Sheets Service)を行なっている図書館は対象雑誌の目次をコピーします。

国内雑誌の商業誌には特集記事が組まれていることが多くあり、受入時には目を通し、クイックレファレンスに役立てます。利用者は書店で見た雑誌の表紙の「色」や「特集名」で問い合わせてきますので、図書館内で最初に雑誌に触れる雑誌係は意識してチェックイン作業を行ないます。

学内に学協会事務局のある雑誌は、他館からの問い合わせを受けることがありますので、連絡をとり寄贈してもらい図書館で保管するようにします。

4)配架

チェックインが終わると新着展示し、その後カレントジャーナル書架へ配架します。書架に雑誌名リストの見出し板を付けると利用者にはわかりやすく便利です。利用の多い雑誌は書架がすぐ乱れるので頻繁に書架整理をし、定期的にシェルフリーディングを行いません。

5)製本

未製本の雑誌は、管理保管するため製本します。それぞれの図書館では、一定期間が経てば廃棄する雑誌、製本して保管する雑誌と区別しています。日本医学図書館協会関東地区では一定期間が経てば廃棄するようなマイナー雑誌の分担保存を各館に割り当てています。

製本は未製本雑誌を適当なページ数で合冊しハードカバーの表紙を付ける作業で、未製本雑誌をゴムバンドで綴じ、製本作業棚に別置き、発注リストを作成し製本業者に出します。発注リストには巻数・号数・年・館名、「増刊」「特別号」等それぞれの識別が可能なように背文字の表記を指示します。製本業者から納品されたらリストと現物のチェックをし、バーコードのID番号を入力し、日付表を貼って配架します。

日本医学図書館協会では年1回重複雑誌交換を行なっています。日本医学図書館協会から重複雑誌リストの提出依頼によりデータを協会へフロッピーで提出します。協会においてすべての提出データをまとめ、各館へ全データがフロッピーで配布されます。リストが届きましたら必要な雑誌を専用の申込用紙でFAXで相手館へ申し込み、回答を待ちます。送料のみの負担で譲渡されるシステムで、製本時に欠本、未着を補うのには非常に助かります。この調査は昭和50年から始まり、年2回の調査が行なわれていましたが、平成14年から年1回の調査に変更となり今年が55回調査になります。

6)蔵書点検

1年に一度行われる蔵書点検時には製本雑誌の点検も行ない、書架の整頓と長期行方不明の雑誌を把握し、一定期間行方不明のものを除籍する作業をします。作業内容は、バーコードリーダーでID番号の読み取るか、製本カードと書架の雑誌の照合作業を行なうことになります。

2. 目録

1) 所蔵目録

それぞれの図書館では自館の所蔵目録、日本医学図書館協会の現行医学雑誌所在目録、医学雑誌総合目録欧文編・和文編、学術雑誌総合目録欧文編・和文編を所蔵しています。

大学図書館のほとんどで NII の NACSIS-CAT の検索が可能になり、冊子体の総合目録の医学雑誌総合目録欧文編第 7 版・和文編第 7 版、学術雑誌総合目録欧文編 1998 年版・和文編 1996 年版で出版は終わりました。

現行医学雑誌所在目録は毎年出版され、年末に更新作業の調査が協会から届き、雑誌係は最新のデータを提出します。

NACSIS-CAT 所蔵レコード更新作業は、定期的に全国一斉に実施されます。欧文編は 2001-2002 年、和文編は 2003-2004 年が最も新しい調査時期です。オンライン・WebUIP・データシトと作業はそれぞれの図書館の事情で異なりますが、所蔵更新、所蔵追加、書誌・所蔵追加、書誌修正、変遷報告の作業は同じです。記入事項や記入方法は NII の「目録情報の基準」「コーディングマニュアル」を参照し、必ず該当データの根拠となる情報源のコピーを送付します。毎年定期的に行なわれている NII の目録システム講習会を受け、記述の決まり等を学習することをお勧めします。

冊子体の目録は、日本医学図書館協会のものは欧文編・和文編とも誌名がアルファベット順で、the 等の冠詞を読まずに配列されています。学術雑誌総合目録は欧文編のアルファベット順は当然ですが、冠詞の the を読むため探すのに苦労する場合があります。一方和文編は五十音順に配列されています。

2) 書誌・所蔵登録

雑誌係が行なう目録作業は NII への登録作業がほとんどです。NII の NACSIS-CAT で登録する際、雑誌の ISSN をキーワードにすることが多いが、NII のデータに ISSN が登録されていなければヒットしませんので、雑誌名でも検索し目的の雑誌を探します。NII への登録の手順は各館の図書館システムによって異なりますので、各図書館システムの NII 登録のマニュアルに則って新規登録、所蔵更新を行ないます。書誌のみの登録はできませんので所蔵を合せて登録します。NII の NACSIS-CAT へ登録したデータは NACSIS Webcat 上で全国に公開されます。

国内雑誌には表紙に和名と欧文名の複数の雑誌名を記載している雑誌があり、医学中央雑誌とNIIとで登録雑誌名が異なるケースもあります。雑誌係はそれらを把握し、OPACに反映させるため自館の目録書誌データを補い、利用者の混乱を避けます。例をあげると、医学中央雑誌では「日本腎臓学会誌」、NIIでは「The Japanese Journal of Nephrology」となっています。このような雑誌名の不一致はよくあるケースで、誌名変更としてNIIへ登録する図書館もあります。

NIIのNACSIS-CATではタイトルの登録を情報源上に表示されている通りが原則で、「紀要」「研究紀要」等の検索には注意が必要です。(例 標題紙に「紀要 東京女子医科大学看護学部」とあるか「東京女子医科大学看護学部紀要」とあるかでタイトルの記入は異なります。)

雑誌目録上どこからも検索できない雑誌名の通称で問い合わせを受けることもありますので覚えておきましょう。「眼紀」「日本眼科紀要」「眼臨」「眼科臨床医報」(「臨眼」は「臨床眼科」)、「プロナス(ProNAS)」「Proceedings of the National Academy of Science of the United States of America」、「グリーンジャーナル」一般的には「The American Journal of Medicine」、神経学分野では「Neurology」、産婦人科学分野では「Obstetrics and Gynecology」を指します。

古い文献では、論文の最後にある引用文献の雑誌名に「ibid」(ibidemの略)と記載されているものが多くあります。これは直前に引用した文献と同じ文献を指します。

Grey Literature(灰色文献)、Core Journal(コアジャーナル)、Rare Journal(レアジャーナル)の3つも重要な言葉です。

一般の出版市場には流通しない政府刊行物、会議資料、公共資料、学位論文等を総称してGrey literatureと言います。JST 科学技術振興機構(Japan Science and Technology Agency)のJDream(JST Document Retrieval system for Academic and Medical fields)のデータベースには、国内をはじめ世界のGrey Literatureも収録されており検索や論文の入手が可能となっています。医学図書館では、厚生省で指定された難病の班会議の報告書である「厚生省特定疾患報告書」(平成15年度より厚生労働省難治性疾患克服研究事業報告書へ変更)が身近な存在です。この報告書は、各班の班長が関係機関へ配布するもので、宛先が大学宛であったり、図書館宛であったりします。最近ではインターネット上で全文が公開されるようにもなりました。厚生労働省図書館のホームページ、難病情報センターのホームページへアクセスしてみましょう。最近では、政府刊行物のホームページから政

府発行の書籍の検索と注文ができ、販売所一覧が案内されています。

Core Journal とは、ある分野において重要でその分野で中心的な雑誌であるとみなされたものを言い、Journal Citation Reports の分野別リストや Brandon/Hill list が一般的です。Rare Journal は当該分野の研究を進めるにあたり必要であるものの、利用頻度が低く、入手が困難等の理由で収集されない雑誌を指します

3. おわりに

毎日届く雑誌の山を受け入れています、一方でどの図書館も書架の空きスペースの問題をかかえているのではないのでしょうか。古い年代の雑誌を別置(デポジット)している図書館も多くあります。各館でバックナンバーをかかえるのではなく集中して管理する国立医学図書館の設立が待たれます。

参考文献

- 1) 松尾恒雄．入門講座 薬学図書館の雑誌管理 その1 雑誌の特性と選択・発注．薬学図書館．1971;16(4):157-166．
- 2) 内島秀樹．電子ジャーナルをめぐる状況：国立大学図書館協議会電子ジャーナル・タスクフォースの活動を中心に．図書館雑誌．2003;97(5):290-291．
- 3) 特集：スキルアップ・レベルアップ.医学図書館 2001;48(1):14-87．
- 4) 田口宣行．外国雑誌の流通と価格．病院図書館．2003;23(3):122-125．
- 5) 野坂美恵子．Brandon/Hill List の収録基準の分析：医学図書館における学術雑誌選定のための評価基準を求めて．Library and Information Science．2002;48:25-41．
- 6) 地原かおり、熊谷智恵子、手嶋恵子、和気たか子．所蔵学術雑誌評価と JCR(Journal Citation Reports)．ほすぴたるらいぶらりあん．2003;28(2):116-122．
- 7) ロバートソン、ヴィクトリア．電子ジャーナルが大学図書館に及ぼす影響：雑誌部門、収書部門および相互貸借部門の役割と機能の変化．オンライン検索．2003;24(3-4):155-163．
- 8) 村橋俊一．わが国欧文誌の現状と問題点．情報管理．2004;47(3):149-154